

2026年度

# J r P 小 論 文

## 注 意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべて黒鉛筆または黒芯のシャープペンシルで記入することになっています。鉛筆またはシャープペンシル・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は4頁までとなっています。試験開始後、ただちに頁数を確認してください。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認してください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子とメモ用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読み、下記の問に答えなさい。解答は解答用紙の所定欄に記入しなさい（この問は、読解力、独創性、論理的構成力、表現力などを見るものです）。

A高校の科学部に所属するBさんは、部活動の一環として取り組む研究のテーマを探していました。インターネットのニュースで「持久系運動のパフォーマンスが高い人ほど、集中力が高い傾向がある」という研究紹介を目にしたBさんは、自分の高校の生徒を対象に同様の研究をしてみようと思いつきました。友達をつてを頼って研究協力者を募ったところ、100名の研究協力者が集まりました。なお、A高校は男子校だったこともあり、研究協力者の生物学的な性はすべて男性でした。研究協力者には、持久系運動のパフォーマンスの指標として、体育の授業で測ったシャトルランの成績をBさんに報告してもらいました。また、体育の授業直後の休み時間に、集中力の評価に一般的に利用される作業検査課題に取り組んでもらって、その成績もBさんに報告してもらいました。Bさんが結果（下図参照）を分析したところ、シャトルランの成績と作業検査課題の成績には弱い正の相関（相関係数  $r = 0.28$ ）が認められました。

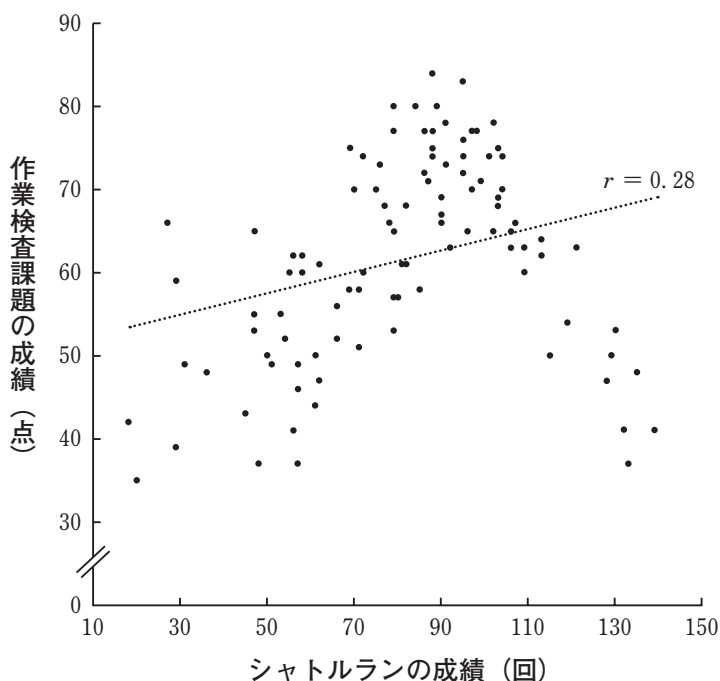


図 個別の研究協力者のシャトルランの成績（横軸：持久系運動パフォーマンスの指標、回数が多いほど一般的に持久力が高い）と作業検査課題の成績（縦軸：集中力の指標、課題の得点が高いほど一般的に集中力が高い）を散布図にまとめたもの。点線は両指標間の回帰直線をあらわす。

**問.**

今回の結果について、Bさんは科学部の研究発表会で報告することにしました。その場合にBさんはどのような報告をするべきか、あなたの考えについて、データの解釈とともに、明快かつ論理的に説明しなさい（ただし、1200字程度）。

【以下余白】